

中高生フォトグラファー応援マガジン

boys & girls photo magazine

No.322

TopEye



組写真部門

「夜の姿」 谷坂 陽菜

八代白百合学園高等学校2年(熊本県)



2024年度
TopEye
フォトコンテスト
年度賞発表!



単写真部門 「旅の始まり」 菊池 優希
宮城県白石工業高等学校1年



2024年度 TopEye フォトコンテスト 入賞作品展

ニコンプラザ東京 THE GALELLY 3/11^火~3/24^月

ニコンプラザ大阪 THE GALELLY 4/3^水~4/16^水

※いずれも10:30~18:30 日曜休館(最終日は15時まで)

第72回ニッコールフォトコンテスト
スペシャルコンテンツ

入賞作品公開中

2024年度 TopEye フォトコンテスト 年度賞



和歌山県立神島高等学校



部員数：20名 / 部長：山中 すみれ
副部長：横尾 凜 / 顧問：恵納 崇



消防署から依頼を受けて署内で写真展!



合宿の様子。年1回開催しています。

よろこびの声

部員全員で取り組んできた年度賞。普段から、組写真を基本に作品づくりをしています。1回目から4回目までたくさんの作品を掲載いただき、ありがとうございました。熊切先生、秋山先生の温かいコメントに励まされながら、1年間取り組んできました。次年度もよろしくお願いいたします。

先生から一言

TopEyeコンテストの年度賞の復活ありがとうございます。3年生が3名と少ない中、なんとか組写真部門の最優秀賞に滑り込むことができました。1年間の目標としていただけによるごひとしおです。ご支援いただいた皆さま方、ありがとうございました。



宮城県白石工業高等学校



よろこびの声

この度は年度賞である最優秀賞をいただくことができ、部員全員とても光栄に思っています。この賞をいただくことができたのは顧問である八嶋先生の普段からの熱意ある指導や、先輩たちの指導、これまで支えてくれた家族などのおかげです。私たちの部ではTopEye賞を3名受賞することができ、他にも多くの部員が各賞を受賞することができました。来年度は今回の結果に満足せずに、今年の結果を超えられるように日々頑張りたいと思います。

先生から一言

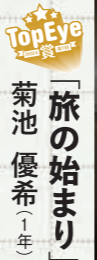
TopEyeの運営の皆さま本当にありがとうございます。本校初のTopEyeの年度賞、今まで最後に逆転されたことがあったので、今回生徒は最後までよく頑張ったと思います。この頑張りが彼らが大人になった際の糧になると信じています。その前に祝勝会をしなければなりません。



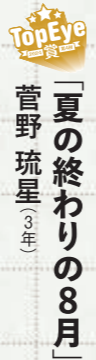
撮った写真を生徒同士で講評!



部員数：15名 / 部長：三條 颯太
副部長：佐山 安二 / 顧問：八嶋 圭吾
大井戸 智也、秋葉 寿太郎



菊池 優希(1年)



菅野 琉星(3年)

2024年度 年度賞の選考について

2024年度第1回～第4回までのTopEyeフォトコンテストへの応募を対象に集計しています。採点項目はTopEye賞100pt、金賞70pt、銀賞40pt、銅賞20pt、入選10pt、新人賞10ptからなり、各項目の合計ポイントを算出。1位が最優秀賞、2位が優秀賞、3位が敢闘賞となっています。



沖縄県立浦添工業高等学校



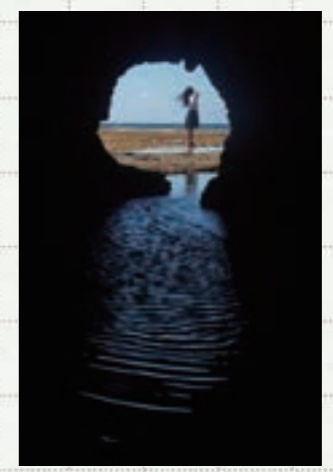
部員数：24名
部長：知花 結
副部長：前原 彩、幸地 今梨
顧問：新垣 隆吾



豊かな自然と地域の方々の応援の中で活動中!



沖縄県高文祭にて、日々みんなる協力しています!



「私の頭の中」池亀 結海(2年生)

よろこびの声

この度は、両方の部門にて賞をいただくことができ、とてもうれしいです! 年に4回TopEyeフォトコンテストがあるので、その度に部員みんなで作品づくりを楽しむことができました! 全国の高校生の作品はたくさんの刺激をもらえます! 次回も頑張るぞ〜!

先生から一言

この度は年度賞をいただき、大変うれしく思っております。毎回、全国の高校生の写真を拝見しながら、表現された作品の奥にあるストーリーに触れた気がして感銘を受けておりました。また、本校の部員も刺激を受けながら「これいい〜! なるほど〜! 次も頑張るぞ!」などと、活動のモチベーションにつながり楽しく参加させていただきました! 全4回を振り返りながら、改めて「写真っていいなあ」と感じました。全国の3年生へ、卒業しても楽しく写真を続けてくださいね!



八代白百合学園高等学校



部員数：26名 / 部長：吉永 有沙 / 副部長：岡田 莉瑠、賀久 愛那 / 顧問：中西 琢也

よろこびの声

この度、組写真部門で優秀賞、単写真部門での敢闘賞受賞の連絡を受け、部員一同、胸がいっぱいになりました。第3回までは、両部門とも僅差の3位で、最終的には追い越されるかもしれないという危機感があり、部員全員が頑張ったことはもちろん、支えてくださった方々のお陰だと思っています。これからも常に感謝を忘れず、個性を活かした作品を制作したいと思っています。

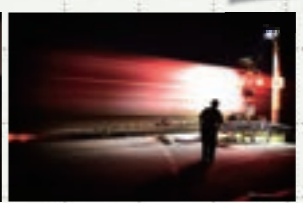
先生から一言

5年ぶりの年度賞復活の年に、組写真部門、単写真部門ともに入賞することができて生徒と一緒に頑張っています。なかなかインパクトの強い写真を撮ることができない部員ばかりなので、身近なものを地道に撮影して、次年度も出品していこうと思います。今回は本当にありがとうございました。

海洋での偶然的な出会い。日本語を話してくれました!



みんな意見を話し合っ、モデルをセッティング



谷坂 陽菜(2年生)

TopEye フォトコンテスト

2024年度第4回

初参加の学校や1年生の作品が目立った2024年度最後のTopEyeフォトコンテスト。表現やジャンルの幅も増え、来年度が楽しみな結果となりました。2025年度も皆さんの参加をお待ちしております！

組写真部門

セオリーにとらわれない自由な作品が審査員の心を掴んだ組写真部門。目に見えないものを表現しようとするような、組写真ならではのストーリー性に富んだ作品が光っていました。



賞状 CREATORSグッズ5点

「夜の姿」 谷坂 陽菜

八代白百合学園高等学校2年(熊本県)

「夜の闇の中にある静けさや不気味な空気感からインスピレーションを受ける感覚というもの、うまく写真表現に乗せられていますね。構成としても、色がない世界と色が効いている世界をバランスよく織り交ぜている。闇に浮かび上がるものをバリエーション豊かに表現できていて、非常にインパクトがある作品です」(熊切)

「日中であればなんてことのない景色が、街灯などの光によって特別なものになる瞬間を共有させてもらえるような作品です。大胆に暗く仕上げることで、浮かび上がったものの存在感をより感じられます。夜の撮影は光量不足や感度を気にして躊躇してしまう人も多い中で、この作品はたとえば猫の目など、積極的かつ丁寧な被写体探しがありました」(秋山)

受賞のコトバ

この度はTopEye賞に選んでいただいたと聞き、驚きと喜びでいっぱいになりました。この作品は、夜の静けさの中でこそ見られる特別な瞬間を捉えたものです。この写真を通して、夜が持つ独特な雰囲気と、その魅力を感じていただければと思っています。今後も、さまざまところに目を向け、新しい世界を探求し続けていきたいです。改めて、このような素晴らしい賞をいただいたことに感謝いたします。



賞状 Tシャツ+キャップ



「アサギマダラ」 山根 楓

和歌山県立神島高等学校1年

「自分なりの視点を見つけようとする意欲と自由さが感じられる作品です。4組さまざまな切り取り方でまとめている、蝶がひらひらと宙を舞っている動きをうまく表現できています。また、くすんだような色味からも非常にこだわりが伝わってきます。昆虫の写真だけではなくいろいろな写真からイメージネーションを得て作品に取り組んでいるんだろうなと感心しました」(秋山) 「花と蝶という題材は、王道で世にあふれている素材です。ですが、この作品はセオリーにとらわれない表現ができています。おそらく昆虫写真の専門家からすれば、こんなにズバッと切っているのかと思うはず。でもそういった考えに縛られない自由さが魅力的です。どう撮れば自分のイメージ通りになるか、そのチャレンジが身を結んだ作品だと思います」(熊切)

受賞のコトバ

この度は金賞に選出いただきありがとうございます。蝶は羽が薄く、繊細な生き物です。舞うように飛ぶ蝶の優美さを伝えるために、花畑の中を走り回りました。金賞の知らせをいただき、蝶になった気持ちではしゃいでいると、先生から「ウチョウテンやな」と言われました。尊敬する先生にじゃれを言ってもらえるように、これからも撮影に励みます。ありがとうございました。



賞状 CREATORSクロス



「ライフ・ロード」 橋本 桂

中越高等学校1年(新潟県)

「〈ライフ・ロード〉は、グレートーンの雪景色から冬の厳しさを感じられて、世界観を露出でうまく作り出しているなと思いました。どこを見せたいのかをもう少しきちんと分かるように撮影をするのとよかったですね。そうすると、より臨場感のある組写真になったのではと思います」(秋山)



「働く」 太田 斗真

和歌山県立神島高等学校1年

「〈働く〉は、モノクロ写真で男性の服のシワや血管まで浮かび上がってくるようです。力仕事に従事して遅く生きている姿をうまく抽出できています。アングルも見事で、雑多な背景の中でも人物がよく引き立っていますね。気になったのは各写真の露出差。意識して調整すると4枚のまとまりがより出るはず」(秋山)



「night」 高田 優里

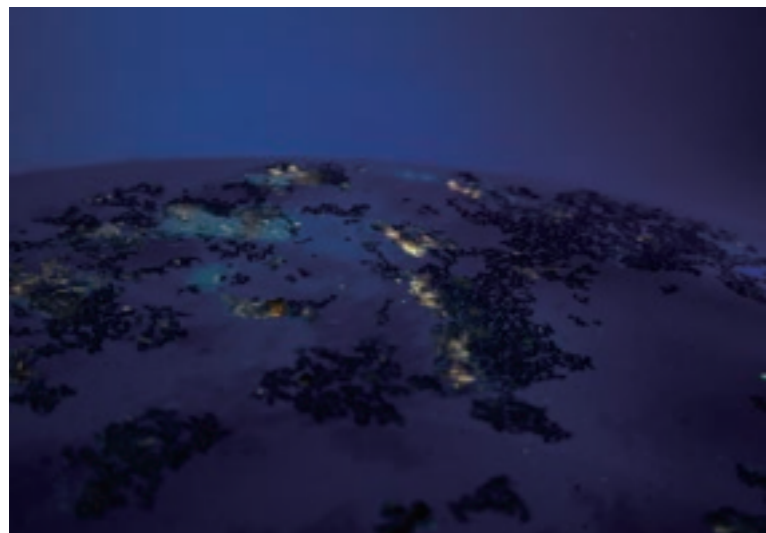
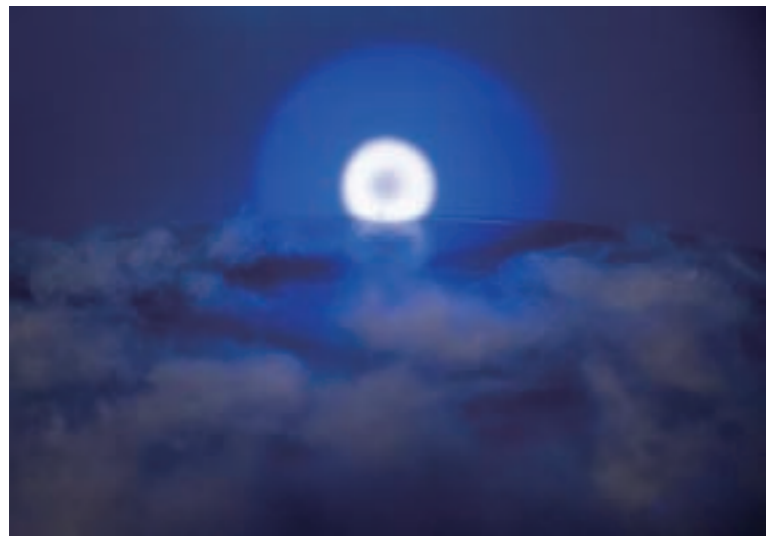
八代白百合学園高等学校1年(熊本県)

「(night)は、自分の心の内を写真で表すような捉え方で、心の中の広がりを感じました。見る人の想像力を働かせる表現で、青いトーンで統一したところにも作品性が受け取れます。美しいグラデーションに対して鉄塔がややノイズになってしまっていたところが惜しかったです」(熊切)



「僕のこと」は、今日は見られたけれど明日は見るできない表情や仕草をうまくピックアップしているなという印象です。かけがえない、ある意味では儚さを感じるような作品ですね。キスされているところから階段を一人で降りているところまで、並び順にも成長過程を感じられてよかったです」(秋山)
 「The Earth」は、見たときに一瞬、宇宙から見た地球の写真なのかなと思われました。初見で大きなインパクトを感じましたね。写真から受け取れる情報はとても少ない中で、これだけの表現力と創作力で作品を魅せられるのは非常に素晴らしいです。見る人の想像力を掻き立てるおもしろい演出だなと感じました」(熊切)

「The Earth」 藤吉 桜央 埼玉県立戸田翔陽高等学校2年



「僕のこと」 倉本 妃杏 群馬県立富岡実業高等学校2年



「追い求める」 吉本 実央 和歌山県立神島高等学校2年



「すずす」 中芝 海里 和歌山県立神島高等学校1年



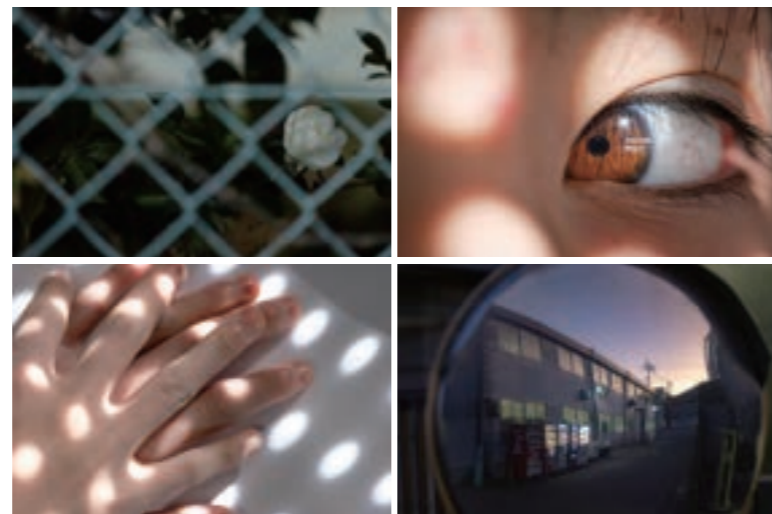
「twins」 鈴木 月渚 和歌山県立神島高等学校3年



銅賞
2024 / 第4回
賞状 CREATORSタオル

「I want to touch it」は、写真にしたからこそ実像として存在させることができる、というものを集めた組み写真だなと感じました。それぞれ違ったものを主役にしてるので色味やコントラストも異なっていますが、全体的なトーンはうまくまとまっている。最後までこだわり抜いて仕上げた様子が伝わってきます」(秋山)
 「違和感」は、よくこれだけ違和感をバリエーション豊富に捉えたなど。自分なりのテーマをしっかり持って街を散策したことが伝わってきました。延々と撮れるシリーズだと思うので、撮り続けていけば1つの大きな作品になっていくのではないのでしょうか。まだまだ広がり期待できる作品です」(熊切)

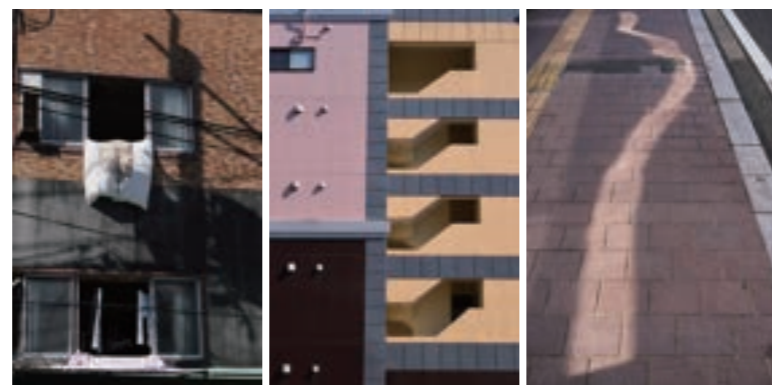
「I want to touch it」
今井 奏良
群馬県立富岡実業高等学校3年



「がんばり日和」 天久 琴葉
沖縄県立浦添工業高等学校3年



「Pattern」 濱本 花音
八代百合学園高等学校2年(熊本県)



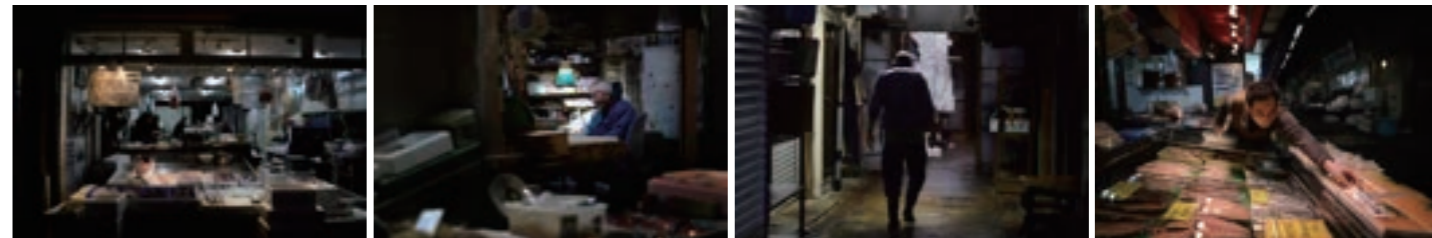
「ガン…!!」 服部 栞奈
沖縄県立浦添工業高等学校1年



「幻影」 佐々木 和磨
宮城県農業高等学校2年



「朝の市場」 生島 百華
八代百合学園高等学校2年(熊本県)



「イロイロなカタチ」 中山 鈴花
沖縄県立浦添工業高等学校2年



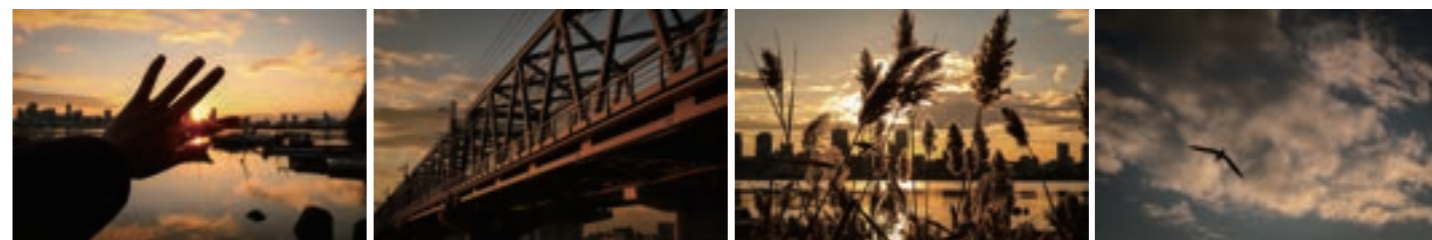
「違和感」 武元 綾花
帝塚山学院中学校高等学校 高校3年(大阪府)



「主役」 須田 芽依
広島県立庄原格致高等学校2年



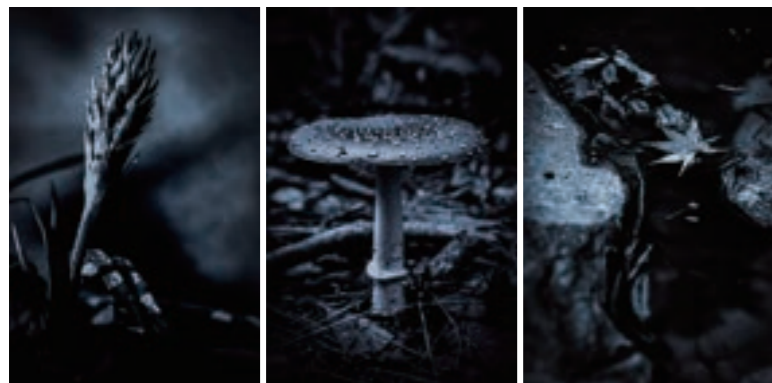
「これから」 玉置 莉子
帝塚山学院中学校高等学校 高校1年(大阪府)



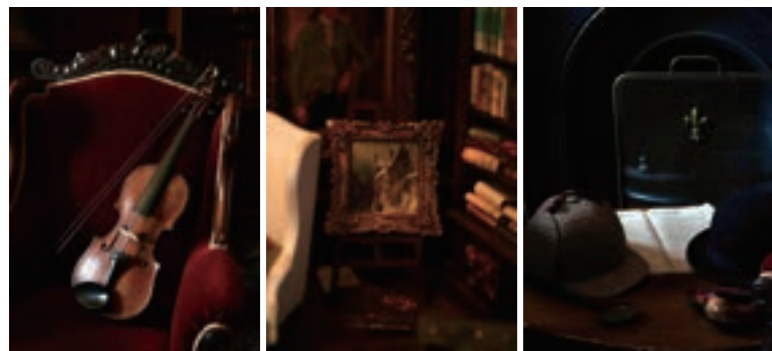


「笑顔の色に染めたくて」は、工房での風景を非常にバリエーション豊富に見せることができています。見上げるような構図があったり、平面的な構図があったり、組むことをきちんと意識して撮影したことが伝わりました。全体の色合いの美しさも見事です。人物が入っているカットは、もう少し作業の臨場感が出せるとよかったですね」(熊切)
 「新涼の変遷」は、さまざまな切り取り方をしながらも色調を整えることによって、暗闇の中で被写体に光が当たって輝き出しているような、不思議な印象をあたえる作品だと思いました。3枚という構成でしっかりと世界観を作り上げていて素敵です」(秋山)

「新涼の変遷」湯朝 悠正 宮城県白石工業高等学校2年



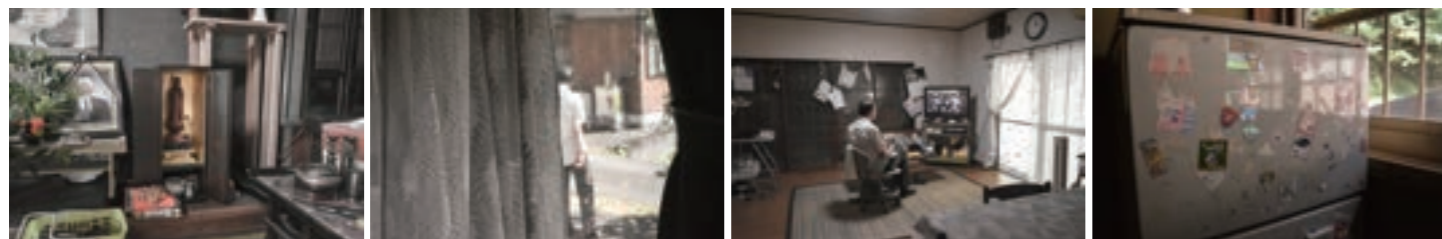
「時を越えて」廣田 京美 同志社女子中学校・高等学校 高校2年(京都府)



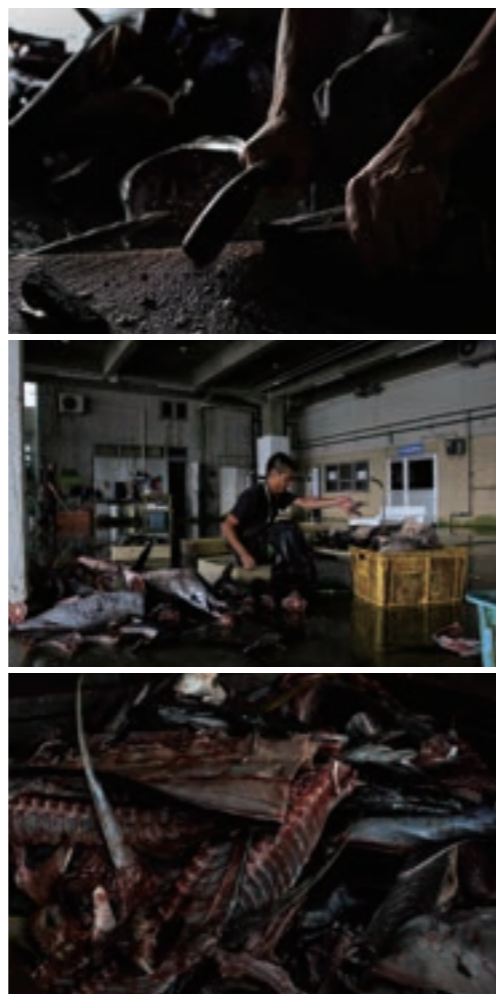
「みこころのままに」生駒 咲樹 和歌山県立神島高等学校3年



「たどる」岡崎 明日香 和歌山県立神島高等学校1年



「命をいただく」金城 花音 沖縄県立浦添工業高等学校3年



「過疎」山中 すみれ 和歌山県立神島高等学校2年



「寂れる」岡田 莉瑠 八代百合学園高等学校2年(熊本県)



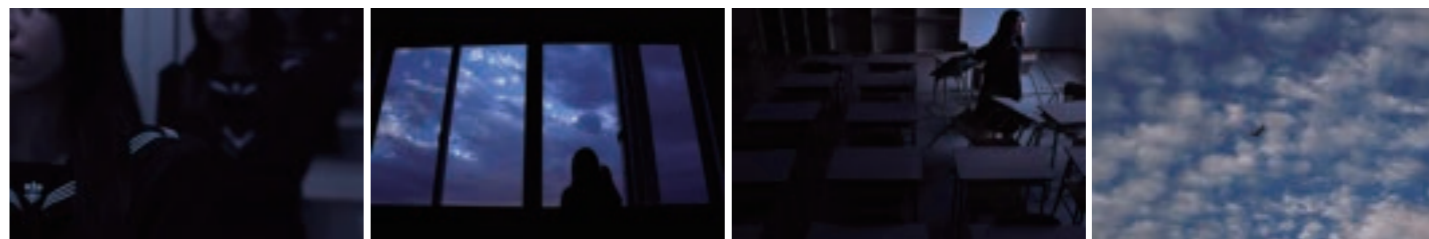
「笑顔の色に染めたくて」遠藤 颯太 東京都立武蔵村山高等学校3年



「海上」丸山 世梨加 和歌山県立神島高等学校3年



「Blue」吉永 有沙 八代百合学園高等学校2年(熊本県)



TopEye フォトコンテスト

単写真部門

全体を通して1年生の参加が目立った今回のTopEyeフォトコンテスト。それを象徴するように、単写真部門のTopEye賞を受賞したのは白石工業高等学校の1年生、菊池さん。おめでとうございます！



賞状 CREATORSグッズ5点

「旅の始まり」 菊池 優希

宮城県白石工業高等学校1年

「何気ないけれど、非常にドラマチックで物語を感じる作品です。アングルも工夫されていて、ローアングルから狙うことで奥行き、光、瞬間性をうまく生かした見せ方ができていますね」(熊切)
「この1枚からさまざまなストーリーが想像できて、とても力強い写真ですね。ホームが光できらめいていて、暗がりの中にも少しポジティブで明るい予感を感じられる情緒にあふれた作品だと感じました。ラフなフレーミングによって、電車や人の動きをしっかりと表現できているところも素敵です」(秋山)

受賞のコトバ

TopEye賞の受賞を知ったとき、飛び上がるほどうれしかったです。先輩方や同級生が受賞するなか約半年間どの大会にも入賞できず焦っていたのでうれしかったです。この写真は、いつもよく行く仙台駅で列車に乗ろうとしたとき列車に光が反射してきてきれいだなと思い、人が乗り込む瞬間に撮りました。これまで指導していただいた顧問の先生やさまざまな技術を教えていただいた先輩方、支えてくれた家族に感謝しています。



賞状 Tシャツ+キャップ

「はじめて、のびる夏」

中山 あいり

中越高等学校3年

「水しぶきと傘の色のコントラストにインパクトがあります。たくさん作品が並んでいる中で非常に目立っていました。影の映る範囲を広くしたことによって、傘が土の上にあっても際立っていて、細部へのこだわりが感じられます」(秋山)
「天地の選択が見事です。この写真をどう見せるのか」ということを、最後まできちんと考えたことが伝わってきます。本来なら影はシルエットになって色は出ませんが、この作品は彩度を少し上げているのか、傘の色が少し乗っている。そこに影のおもしろさが感じられます」(熊切)

受賞のコトバ

この度は金賞に選出していただき、ありがとうございます。今回は私にとって最後のTopEyeでした。最後にこのような賞をいただけること、光栄に思います。この作品では、影に反射する傘の光を生かせるよう、とくに画面構成や露出を意識して撮影しました。3年間の部活の中でもとくに印象に残っている楽しい撮影で、個人的にも思い出がある作品なので、とてもうれしいです。撮影に協力して下さった先輩方や先生、部員みんなに感謝したいです。ありがとうございました。



賞状 CREATORSクロス

「歪み」 井町 莉子

千葉県立四街道高等学校1年

「〈歪み〉は、都市デザインと光の反射という要素を使って不思議な光景を作り出すことができています。構図のバランスと作り方がとてもいいです。人の配置のコントロールまでしっかりできるとよりいい作品になるかなと思います」(熊切)



「導きの光」 井口 未貴 東京都立武蔵村山高等学校1年

「〈導きの光〉は、人物の表情と目線の詰め方に作者の意図が感じられました。光の捉え方も見事で、顔に光を当てないことで静かで落ち着いた雰囲気が出てきています。気になったのはアスペクト比。撮影時から印刷したときのことを意識してあげるといいかもしれません」(秋山)



「進化の瞬間」 矢部 那波

埼玉県立伊奈学園総合高等学校1年

「〈進化の瞬間〉は、瞬間的な動きのおもしろさに尽きますね。足が微妙に浮いていてタイミングがよかったです。欲を言うと「どうしてこうなったのか」まで見てみたかった気も。まわりの状況がもう少し写り込むと、よりシュールで楽しい写真になったのではないのでしょうか」(熊切)

銀賞

2024 / 第4回

賞状 CREATORSキャップ

「(糸愛)は、背景におせちなど生活感のあるもの入れたことで、家族の繋がりと和気あいあとした雰囲気がよく伝わってきます。表情や出来事だけではなく、こういった場所で繰り広げられた光景なのかわかるので、作品に深みが増してより想像が掻き立てられました。手前の影も、撮影者自身の存在を落とし込んでいるかのようなおもしろみを感じます」(秋山)

「(未来へ)は、発想がとてもおもしろいですね。自分の身の回りにあるもので、ここまでストーリーを語ることができるかと驚きました。ライティングの当て方も、正面ではなく逆光でエッジを利かせることで、非常に印象的な画作りになっています。狭い世界の中で工夫に富んだ作品が撮れたのではないのでしょうか」(熊切)

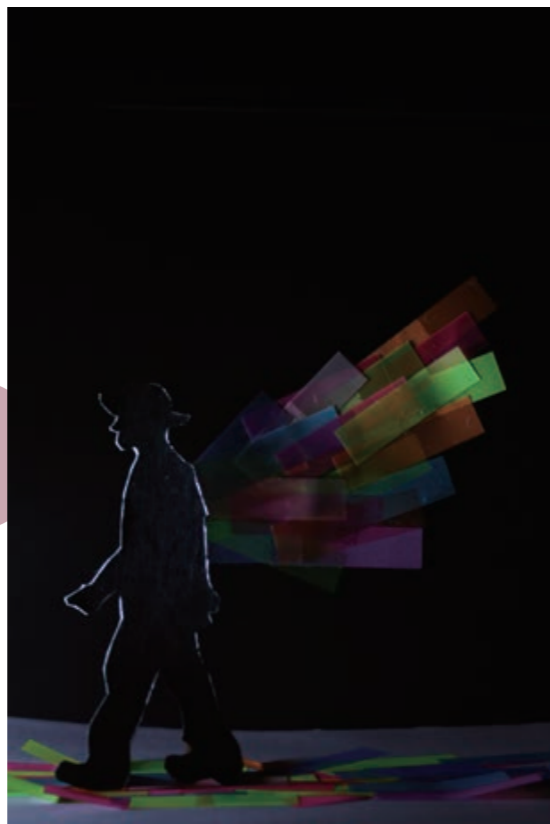
東京都立武蔵村山高等学校1年
加 渡邊 哲太



「Rush」三條 颯太
宮城県白石工業高等学校2年



千葉県立四街道高等学校1年
「未来へ」伊藤 紅稀



「カタコト」田邊 楓音
神奈川県立横浜瀬谷高等学校1年



「糸愛」倉本 妃杏
群馬県立富岡実業高等学校2年



銅賞

2024 / 第4回

賞状 CREATORSタオル

「遠くに出かけたり特別なシーンを探し求めたりせずとも、身近にあるもので目では見ることができないような特別な一瞬を作り出すことができる。(露滴)を見てそう感じました。飛沫と光の力強さも非常にマッチしているし、水の形と手の動きのバランスもきちんと考えられていますね」(秋山)

「(線上の哲学者)は、都会に暮らす鳥のおもしろさをうまく表現できた作品ですね。背景にある電線がガラスに負けないくらい存在感があるし、かつガラスを引き立ててみている。ただ野鳥を撮るのではなく、シチュエーションをうまく使って、都会でたくましく暮らす強いガラスのイメージを引き出せたんじゃないかなと思います」(熊切)

「パノプティコン」手束 舞歌
神戸国際大学附属高等学校3年(兵庫県)



「黄昏のひととき」吉雄 葵
関市立関商工高等学校1年(岐阜県)



「似たもの同士」寺村 隼汰
滋賀県立河瀬中学校・高等学校 高校2年



宮城県白石工業高等学校2年
「線上の哲学者」小形 愛珠



沖縄県立浦添工業高等学校3年
「腕の中のぬくもり」安里 すら



「こっそりと」田中 奏音
八代白百合学園高等学校1年(熊本県)



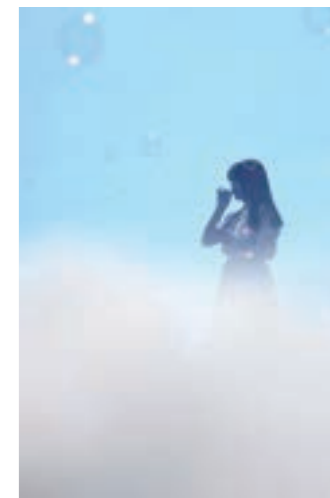
「備え」志水 華歩
八代白百合学園高等学校1年(熊本県)



「負けへんで」濱本 海里
和歌山県立神島高等学校1年



「夢想」岡田 莉瑠
八代白百合学園高等学校2年(熊本県)



「露滴」長里 日千花
宮城県農業高等学校2年

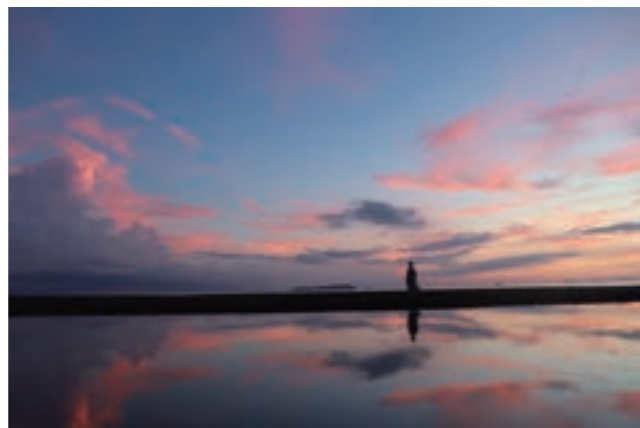




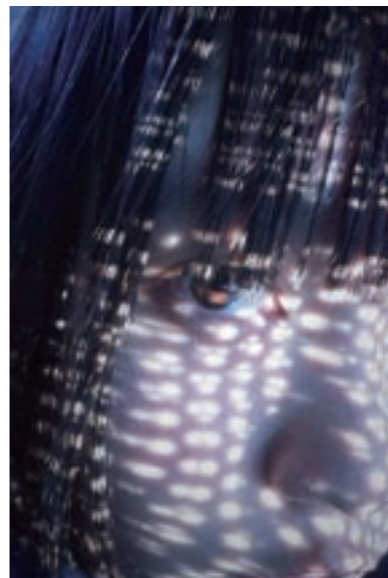
賞状 CREATORSステッカー

「(いつまでも)は、エッジライトが出ていることで、トランペットのきらめきや人物の品格が暗闇の中に浮かび上がってドラマチックな印象です。ただ、長くトランペットを吹いてきた”点”にフォーカスを置きたいのであれば、たとえば手にもっと光が当たっているようなカットを選んでみる。するとよりその人が楽器を愛して吹いてきたという想像が膨らむ作品になったのかなと感じました」(秋山)
 「(スプラッシュガール!)は、もうこの決定的瞬間がおもしろいです。動きと表情がドンピシャのタイミングで最高です。本来だったら人物をど真ん中に置きそうところを画面の端に置いているわけです。この構図の取り方にも偶然性のおもしろみを感じるし、どうしてこういう写真になったのか想像を掻き立てられます」(熊切)

「私の心」森池 悠貴
香川県立多度津高等学校1年



「きらめき」横尾 凜
和歌山県立神島高等学校2年



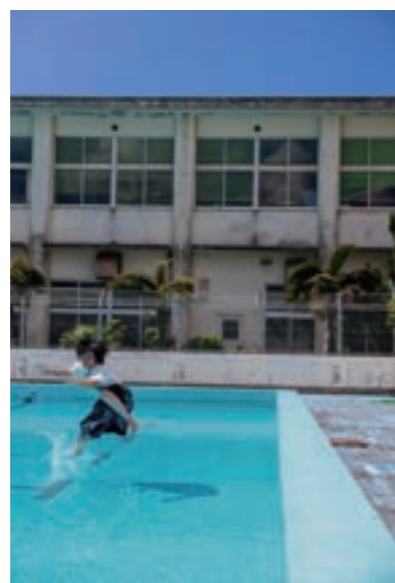
「よし!いくぞー!!」中畑 心
和歌山県立神島高等学校2年



「狐影(こえい)」西村 わかな
神戸国際大学附属高等学校3年(兵庫県)



「スプラッシュガール!」加藤 麗奈
沖縄県立美来工科高等学校2年



「はたち?」今井田 あおい
帝塚山学院中学校高等学校 高校1年(大阪府)



「いつまでも」簀下 煌太
大阪府立工芸高等学校2年



2024年度 第4回 総評

1年生の躍進に驚き! 来年度も楽しみです

熊切:今回は新規の参加校も増えただけでなく、写真表現のバリエーションが豊かになったというのが第一印象としてありましたね。その中で1年生のレベルが非常に高かった。2年、3年はうかうかしてられないよっていうぐらい(笑)。技術力の高さはもちろん、固定観念に囚われていない自由さは我々も見習いたいところです。
 秋山:1年生の作品はたしかに多かったですね。そして皆さん、被写体とストレートに向き合っている!まず最初に被写体を見つめるという行為の大切さを感じ取れるような作品が多かったです。
 熊切:やっぱりどうしても「ウケる写真」というセオリーに乗ってしまいがちなんだけど、もう少し写真って自由でいいんだというのを再認識できました。そういった下級生の

写真から刺激を受ける上級生の皆さんの作品を見るのもこれから楽しみです。
 秋山:あとは自分の心に向き合っているような、繊細な気持ちを感じ取れる写真も多かったです。上位に入った作品に共通していたのは、仕上がりの作り込みかな。色やプリントまでこだわればもっと上位にいったのに、という作品もありました。最終的な仕上げというものが審査ではだいぶポイントになるということも意識してもらえたら。
 熊切:うんうん。自分のできる範囲でいいので、紙選びもこだわってみてほしいですね。あとは、組写真であれば、組み合わせの仕方。順番の意味や統一感も表現のひとつなので、もっとクオリティを上げられるといんじゃないかなと思います。



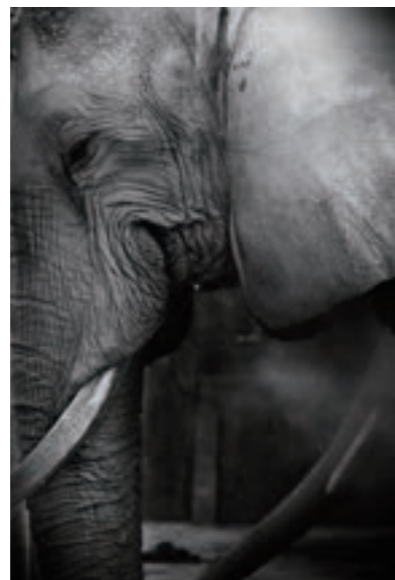
審査員 熊切 大輔
東京工芸大学を卒業後、日刊ゲンダイ写真部を経てフリーランスの写真家として独立。ニコニコレヅ講師。ニコニコクラブ アドバイザー。公益社団法人 日本写真家協会会長。

審査員 秋山 華子
大阪芸術大学写真学科卒業後、写真家・織作峰子氏に師事。大阪芸術大学写真学科非常勤講師。ニコニコレヅ講師。ニコニコクラブ アドバイザー。

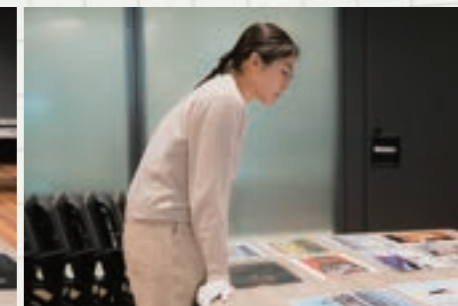
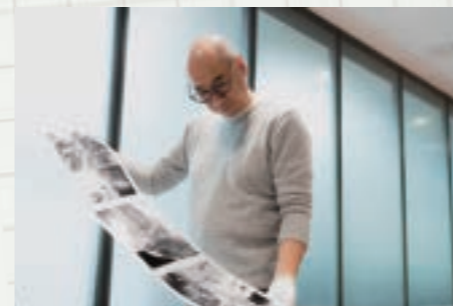
「夜露死苦」吉永 有沙
八代白百合学園高等学校2年(熊本県)



「静かな強さ」谷坂 陽菜
八代白百合学園高等学校2年(熊本県)



「Midnight Lover」梅田 泰輔
神奈川県立横浜瀬谷高等学校2年



TopEye's OB&OG interview

今に付き先輩を 訪ねて。

Vol.3



1_第188回TopEyeフォトコンテスト 準TopEye賞「碧海の肌」 2_高校時代の作品「影縫い道」



米川真紀さん

神奈川県立横浜瀬谷高等学校、多摩美術大学 彫刻学科卒業。
高校在学時に「碧海の肌」で第188回TopEyeフォトコンテスト 準TopEye賞を受賞。現在はゲームデザイナーとして活躍する。

愛用カメラ Nikon D5300

「高校生のときに買った初めての一眼レフ。それまではデジカメやDSの内蔵カメラで撮っていたので、この質量に感動しました。ずっしりしているところが魅力的です」



今も生きている「写真表現で培った力」

子供の頃から美術全般が好きだった私は、高校では新しい表現に挑戦しようと美術部と写真部に入部しました。カメラを始めた頃は何を撮ればいいのか分からず、とにかくポートレートを撮影。転機となったのは、マクロレンズとの出会いでした。被写体を近くで撮ったとき、それまでは空間を切り出す行為だと思っていた写真撮影が、被写体の隠されていた魅力に出会える行為に変わったんです。「碧海の肌」でも、魚の一部を写し出すことで、肉眼では見ることができないモチーフの特徴を知ることができました。それからは徐々に、物撮りが自分のスタイルになっていきました。

撮影で大切にしていたことは、光と影を見ること。光と影によってモチーフの色や立体感が変わるので、光源はとくに意識していました。あとは、ファインダーを覗いて構図を決めるときに、被写体だけに注目するのではなく、そこから伸びている影やまわりにあるものも一緒に見ることに。1つの要素だけに注視していると、そこはよくても他はよくない中途半端な写真になってしまうんですね。被写体も無理に探すのではなく、日常生活の中で「おもしろい」と感じたものを撮るようにしていました。些細なこともおもしろく演出できるのが写真。そういう発見を楽しむことが、いい作品作りにつながるような気がしています。

今はゲームのデザイナーとして働いているのですが、高校時代の写真活動が今の仕事にとっても生きています。写真を撮る際に意識していた「空間を見る」ということや、被写体をよりよく見せるにはどうすればいいか試行錯誤した経験。デザイン案やゲーム画面の中の演出を考えるときに、写真で培った視点や思考力が役に立っていると感じる日々です。今、学生の皆さんにアドバイスしたいことは、好きなことを突き詰めたほうが良いよということ。自分の好きなことに素直でいる気持ちが大変なんだと、これまでの人生から身をもって感じます。自分の中で揺らがないものが1つでもあると、作家としても人間としても強いられるのではないのでしょうか。

共感でしかない?
みんなの声を大募集!

写真部 あるある

aru aru

全国総文祭*で
友達が
できる!

※全国高等学校総合文化祭

広角レンズと
望遠レンズを
付け替えるのに苦戦。

写真を印刷するとき、
用紙を裏にして
プリントミスしちゃう!

テレビに映るカメラマンの
カメラに着目しがち。
Nikonのカメラだと
親近感が湧く!

人見知りが多め。

インスタで
写真垢を作りがち。

編 どんどんアップしよう!

展示するのが
大変すぎる!

編 お疲れさまです!

青っぽい写真を撮りたいと思って
ホワイトバランスを変更したけれど、
戻すのを忘れてその日に撮った写真が
すべて青っぽくなってしまった。

誰かが学校のカメラの
レンズキャップを失くしてしまい、
部内で大騒ぎ。

編 無事見つかったかな?!

WEB・SNS展開中!

チェック&フォローお願いします

TopEyeの公式Instagramでは、コンテストの入賞作品や取材のひとつコマ、写真展案内など日々更新中。また、ニコンイメージングジャパンの公式LINEではニコンの製品やキャンペーン、ニコンプラザなどの最新情報をお届けします。ぜひフォローしてください!



「TopEye」
Instagram



ニコン
イメージングジャパンLINE



ニコンイメージングジャパン
「TopEye」WEBサイト